

Informilo de HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

Heroldo de HEL

N-ro 98 oktobro-novembro 2003

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

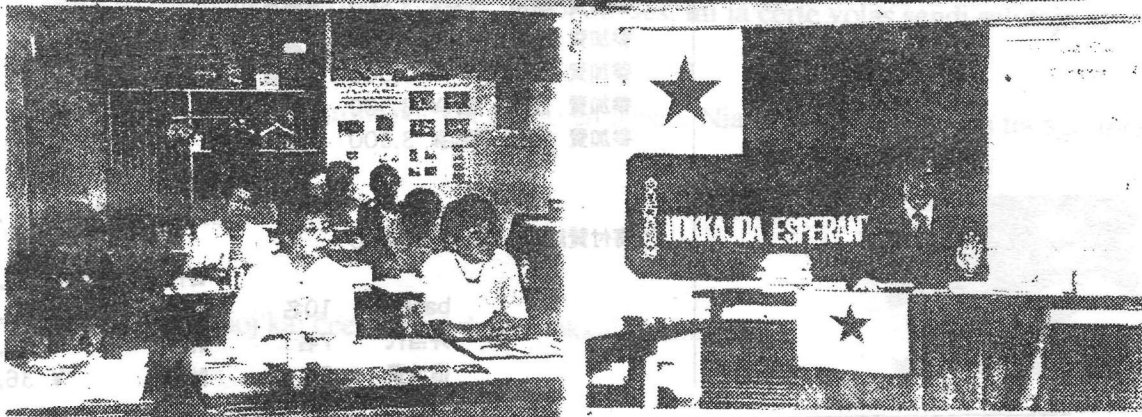
ĉe HOŜIDA Acuŝi

〒053-0844

Mijanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田 淳 方

053-0844 JAPANIO



La 67a Hokkajda Kongreso de Esperanto en Tomakomai (14a de septembro 2003)

次回の委員会は12月13日(土) ロンデタージョで17:00からです。
委員は出欠を事前にならずお知らせ下さい。

第 67 回北海道エスぺラント大会 苫小牧

67a Kongreso

決算書

支出	総計	¥118,122	収入	総計	¥160,800	
会場費 文化交流	¥	3,400	参加費 柴田 真吾	¥	2,000	不在参加
講師費 篠原 昌	¥	13,000	参加費 柴田 智美	¥	2,000	不在参加
事務費*	¥	-	参加費 前田 幸一	¥	2,000	不在参加
bankedのセイコー	¥	9,401	参加費 山本 昭二	¥	2,000	不在参加
bankedの新川旅館	¥	30,000	参加費 豊蔵 正吾	¥	2,000	不在参加
図書印刷費*	¥	20,000	参加費 児玉 広夫	¥	2,000	不在参加
			参加費 山下 博子	¥	2,000	不在参加
弁当代 甚平	¥	5,541	参加費 阿部 映子	¥	2,000	不在参加
宿泊費 新川旅館	¥	33,600	参加費 佐藤 不二	¥	2,000	不在参加
消費税 新川旅館	¥	3,180				計 ¥ 18,000
			参加費 木村 洋子	¥	300	
						一般計 ¥ 300
繰越金	¥	42,678	参加費 上西 晴生	¥	2,000	2日目参加
			参加費 金森 美子	¥	2,000	1日目参加
			参加費 近藤 まゆみ	¥	2,000	2日目参加
			参加費 横山 裕之	¥	2,000	2日目参加
						1日参加 計 ¥ 8,000
			参加費 大山口 謙	¥	3,500	連盟員
			参加費 榊山 裕介	¥	3,500	連盟員
			参加費 佐藤 英治	¥	3,500	連盟員
			参加費 椿 正一	¥	3,500	連盟員
			参加費 星田 淳	¥	3,500	連盟員
			参加費 星田 文子	¥	3,500	連盟員
			参加費 松野 元	¥	3,500	連盟員
			参加費 港 利子	¥	3,500	連盟員
			参加費 宮沢 直人	¥	3,500	連盟員
			参加費 後藤 義治	¥	3,500	連盟員
						計 ¥ 35,000
			寄付賛柴田 真吾	¥	30,000	参加費 計 ¥ 61,300
						寄付賛同金 計 ¥ 30,000
			bankedo	10名	計	¥ 30,000
			弁当代	7名	計	¥ 3,500
			宿泊費	8名	計	¥ 36,000

<予算>

支出	総計	¥ 72,800	収入	総計	¥ 113,500
会場費	¥	2,800	参加費	¥	50,500
講師費	¥	10,000	連盟参加	¥	38,500
事務費	¥	2,000	不在参加	¥	12,000
bankedo	¥	33,000	寄付賛同金	¥	30,000
図書印刷	¥	20,000	bankedo	¥	33,000
予備費	¥	5,000			
繰越金	¥	40,700			



Elparolis p-ro SINOHARA Masahiko

ダイアン ルークスさんからのメール

Saluton al la Hokkajda Kongreso

2003.9.11

Kara Acuŝi, dankon pro via agrabla respondo. Jes, mi ja certe volas sendi salutojn al via kongreso.

Mi donas al vi bondezirojn por via agado en Rusio. Nia mondo tre bezonas tia ago inter popoloj mi opinias.

Amike Dianne



Karaj samideanoj kaj ĉeestasntoj de la Hokkajda Kongreso,

Estas mia plezuro doni al vi varmajn, korajn salutojn ĉe Hokkajda Kongreso de Esperanto.

Lastatempe ni ankaŭ kongresis en Tokushima kaj tie ĝuis la bonkonatan Awa dancadon.

Mi esperas, ke vi ankaŭ tre ĝuos vian kongreson, ĉi tiu semajfino kaj ĝi fruktodonos al vi multajn junulajn komencantojn.

Ĝis la japana Kongreso en Kameoka,

Kore, Dianne Lukes el Aŭstralio

私は篠原先生を誤解していた。

先生は苫小牧では一定の人気がある人で、よく講演や司会を頼まれる人である。私が苫小牧に住んでいたおり、2、3回ほど先生の講演を聞く機会があり、質問もしたことがあった。話題のなかの最も美しい部分を連結させていく先生の話し方に、この人はイメージ先行で、実態のないきれいごとで陶酔する人ではないかと疑いを抱いた。

また、この講演の題は、こちらから申し入れたのではなくて、先生が提案したものだったそうだ。近代日本文学の研究者である篠原先生がエスペラントについて語るべき何かを持っているとは、つゆ、知らなかった。意外に思った。

これは篠原先生のせいではないが、苫小牧E会の提案を委員会で追認して、大会テーマを『21世紀を開く平和のことば「エスペラント」』としたことに、ある会員から政治的意図がみえると抗議があった。私はこの会員と同意見ではないが、だれも異論を唱えようのない最大公約数的なことばであるがゆえに、私にとっても実はかえって使いたくないことばであった。

ところが、篠原先生の話の聴き、参加者とのやりとりを聴いているうちに、篠原先生が、イメージではなく、むしろ、よりいっそう生々しいヒトの表現の可能性と、それが許されるための場の設定を何よりも大切に考えるからこそ、つい私のような者がつまらなく思ってしまう様な、実は可能性を秘めたものを、拾い上げていることがわかってきた。私の先入観とは逆だったのだ。

「母語」への尊重も「エスペラント」も、その過程で、すでに篠原先生の内部に組み込まれていたのである。そして、使い古された感のある「平和」ということばだが、看板に書かれた仲間うちのお題目ではなく、ヒトをすりつぶしている現実を直視するがうえに譲れない、篠原さんなりの平和が見えてきた。

以下の文は、篠原さんのことばを、そのまま伝える報道者（ジャーナリスト）の文ではなく、私なりに咀嚼して、

幾分、勝手に解釈して書いた作文（エッセイ）として読んでいただきたい。篠原さんは、今までの思考の上に、その場でも厳しく思考を入れながら語っていた。私も思考を入れて解釈しなおして文にしたので、篠原さんの言葉でない言葉が入っていることを了承されたい。

篠原「先生」という呼び方がしっくりくるのだが、以下、「篠原さん」という形に統一する。

1967年11月11日、ベトナム爆撃を続ける米国政府に積極協力をする佐藤内閣に抗議して、焼身自殺した由比忠之進。日本・中国の知識界に清新な風をもたらした盲目の詩人エロシェンコ。2人のエスペランティストの意味を改めて問う。

焼身自殺事件のとき、篠原さんは中学3年生。その衝撃を、ついきのうのように覚えている。イラク戦争のいま、由比氏の行動を省みる。由比氏を省みることによって湧いてくる無念さを著書「いま、抗暴のときに」に書いた、辺見庸氏に言及。由比氏と知りあいだった星田淳さんの証言で、生前の由比氏が、派閥や党派にとらわれず、自分の意見を言う人であったことがわかる。

（敗戦後、旧満州にしばらくとどまったとき、国民党にも共産党にも批判すべきことは批判していたこと。反核運動のなかで、ソ連の核実験にも反対していたことなど。）また、星田さんは、由比氏の前に米国本土で抗議の焼身自殺をしたエスペランティスト、アリス・ヘルツさん（英語読みでハース）と文通していた。星田さんのエスペラントでの知人が、2人もガソリンをかぶって自ら焼け死んだのだ。

エロシェンコについては、「孤独」であったことが大事だと、篠原さんは言う。「孤独」を「自由」と読み替えてもいいだろう。別に反体制の運動家であろうとしたわけでもない。なのに、自分の理性・知性・感性のおもむくままに単独で自由に国境を越えて動いて盲学校で教え、童話や詩を書き、文化人達と交際するだけで、スターリン政権

や大日本帝国の官憲から嫌われ、圧迫を受ける。そのエロシエンコが、日本の良心に影響をもたらしたことに注目したい。エスペラント的自由人エロシエンコの風は、魯迅に引き継がれる。

日本の平和運動にはエスペラントの血が確かに入っている。

ここに一冊の新書本がある。ウルリッヒ・リンス著「危険な言語」。草創以来、エスペラントが受けてきた弾圧史を、おもにスターリンとナチスによる抹殺の過程に紙面を割いてまとめた本である。これを篠原さんは、若い頃に繰り返し読んだという。

エスペラントには何かがある。強者たることによって弱者を支配しようとする意志を、根底から否定するものが。民族が民族を支配する土俵そのものが失せてしまうものが。

「母国語」という言葉がある。よく使われるようになった。しかし「母語」とは別物だと、言語学者・田中克彦氏は書いている。例えば、母国語は日本語、母語は気仙沼語というように。20世紀には多くの言語が失われた。そして、勝ち残った言語のなかでも特に、冷戦終結後のグローバル化という名の極支配への波に乗って、英語が極支配の完成へ向けて膨らみ続けている。そのアンチテーゼ（反説）として「母語の豊かさ」がある。そして、地球語には、英語ではなく、母語を損なわない言語であるエスペラントがふさわしい。だから、エスペラントも、グローバル化へのアンチテーゼとみなせる。

篠原さんは日本語文学の研究者である。しかし、日本語文学研究の伝統に安住する人ではない。アイヌの詩人・歌人である森竹竹市が本来の母語であるアイヌ語ではなく、日本語で表現せざるを得なかった。それでもあえて表現したことが、日本語世界に何かをもたらしたのではないかと、問題提起している。（篠原昌彦「日本語境界領域の当事者文学～『海へ』＜南木佳士＞・森竹竹市をケーススタディとして」ブックセンターメディアジャック社 400円 図書部に在庫があります。）また、在外日本人の日本語による最近の文学を高く評価。声なき周辺だった境界な

いし越境する人がうたう文学に、誠実に耳を傾けている。

篠原さんが特に心を痛めているのが、生と死の境界に追い詰められ、黙って境を越えた、年間3万人をこえる自殺者である。そして、精神を病む人々の「境界領域の当事者」の文学の解説を試みた対象が小説『海へ』である。

さて、ここに篠原さんの平和論がある。篠原さんによる平和の定義は「殺さないこと、殺されないこと」。「篠原先生の言う平和は、平べったく聞こえる」という意見に、「私は平べったい平和をこそ大切にしたい」と答えた。ひどい抑圧や暴力があるのに、戦争でないことだけをもってよしとするわけにはいかないというのは、質問者も回答者も同じだった。篠原さんいわく、峠三吉がひらがなで書いた「にんげんをかえせ」が漢字交じりだったら、ただのイデオロギーになる。ジョン・レノンの「イマジニ」を、「いまさら、またイマジニか」と言われようが、歌う。それが、篠原さんの矜持だ。なるほど、追い詰められそうな人たちの声が封じられずに外へ伝わり、共存が成立しているところでは、戦争という名の虐殺も大量自殺も民族紛争もグローバル化による貧富の拡大も理不尽な世の中に順応できずに病んでいく人の群も、あり得るだろうか。

質疑応答の場で、「たとえどんな理由があろうとも、自爆テロには反対。生きてほしい。」「尊厳死は賛成する。安楽死には反対。両者は別。」との答えをいただいた。

星田氏によれば、実は、ザメンホフは平和（paco）という言葉をもったに使っていない。「民族間の壁を壊す」という表現を頻用している。私（樺山）は、「平和」という言葉の個所に「共存」という言葉を入れて考えてみたいと思っている。

多くの参加者が質問し、ひとつひとつに誠実に答えをいただいた。立場・見識の違う人たちの厳しい質問にも、真正面から答えていただいた。この時間の後に予定が入っていて、交流会（bankedo）を共にしていただくことはかなわなかった。多忙な中、時間を割いていただいた篠原さんに感謝したい。

支出	予算	決算
一般支出	¥238,000	¥ 276,331
事務費	¥90,000	¥ 77,650
事務關係費	¥45,000	¥ 17,630
圖書印刷費	¥5,000	¥ 2,200
旅費交通費	¥30,000	¥ 56,840
雜費	¥10,000	¥ 980
機關誌費	¥114,000	¥ 165,948
用紙印刷費	¥41,000	¥ 80,848
連絡発送費	¥73,000	¥ 85,100
組織重伝費	¥20,000	¥ 10,000
紙類手数料	¥4,000	¥ 3,355
予備費	¥10,000	¥ -
國際交流費	¥ -	¥ -
接続料	¥ -	¥ 19,378
繰越金		▲¥107,314
事業支出	¥431,400	¥ 437,158
第66回通大会	¥201,400	¥ 187,663
会場費	¥17,400	¥ 17,380
股費	¥3,000	¥ -
講師費	¥66,000	¥ 16,000
事務費	¥30,000	¥ 6,730
bankedo	¥50,000	¥ 10,000
圖書印刷費	¥20,000	¥ 8,747
予備費	¥15,000	¥ 30,065
招待費	¥ -	¥ 2,040
旅費交通費	¥ -	¥ 96,701
新年講習会	¥50,000	¥ 24,445
長期合宿	¥110,000	¥ 60,000
圖書購入資金	¥70,000	¥ 70,000
中堅基金運送費	¥ -	¥ 95,050
繰越金		▲¥88,838
合計	¥669,400	¥ 517,337

收入	予算	決算
一般収入	¥196,900	¥ 169,017
会費収入	¥171,500	¥ 148,500
前受収入	¥37,000	¥ 11,000
当期収入	¥134,500	¥ 137,500
正会員	¥120,000	¥ 120,000
期納会員	¥12,000	¥ 16,000
求換会員	¥1,000	¥ -
青年会員	¥1,500	¥ 1,500
寄付金	¥24,000	¥ 20,500
受取利息	¥1,000	¥ 17
繰越金	¥ -	¥ -
雑収入	¥400	¥ -
事業収入	¥472,500	¥ 348,320
第66回道大会	¥232,500	¥ 184,000
参加費	¥112,500	¥ 85,600
連登参加	¥90,000	¥ 63,000
不在参加	¥22,500	¥ 22,000
一般		¥ 600
寄付賛同金	¥50,000	¥ 75,700
bankedo	¥70,000	¥ 7,000
雑収入		¥ 15,700
新年講習会	¥50,000	¥ 11,500
春期合宿	¥120,000	¥ 60,320
図書販売	¥70,000	¥ 70,000
第67回道大前受金		¥ 22,500
合計	¥669,400	¥ 517,337

2. 2004年度予算 2003.9.14



支出		収入	
一般支出	268,000	一般収入	227,300
事務局費	84,000	32会費収入	162,300
事務関係費	20,000	前受収入	14,800
図書印刷費	3,000	当期収入	147,500
旅費交通費	60,000	正会員	129,000
雑費	2,000	購読会員	16,000
機関誌費	120,000	家族会員	1,000
用紙印刷費	49,000	青年会員	1,500
連絡発送費	71,000	寄付金	40,000
組織宣伝費	10,000	国際交流費と	
振替手数料	4,000	して寄付金	
予備費	5,000		
国際交流費	25,000		
接続料	20,000		
事業支出	192,800	事業収入	233,500
第 67 回道大会	72,800	第 67 回道大会	113,500
会場費	2,800	参加費	50,500
講師費	10,000	連盟参加	38,500
事務費	2,000	不在参加	12,000
bankedo	33,000		
図書印刷費	20,000	寄付賛同金	30,000
予備費	5,000	bankedo	33,000
新年講習会	10,000	新年講習会	10,000
春期合宿	110,000	春期合宿	110,000
合計	460,800	合計	460,800

Raporto de Tomakomaja Esp. - Societo
(2002\Okt. ~2003\Sept.)

苫小牧エスペラント会

*Regula Kunsido: 2-foje monate, vespere dum 1830-2100 en apartaj lo-koj. Unu fojon en la Centro de kulturaj intersanĝoj (karesnome: ajvii-plaza, de angla ivy-plaza - ni provizore nomu IV-Placo). Ankoraŭ unu fojon ni kunsidas en la hejmo de Familio Hosida. Ni uzas du kursolibrojn. Por la elementa kurso ni uzas "La Unua Kurslibro"-n kaj por la progresintoj ni uzas "Lasu nin paroli plu!" de Claud Piron. Ni uzas ankaŭ aliajn materialojn el interreto laŭbezoni.

*17/okt. S-ro Valerij Paravin, akompanate de S-ro Miyazawa vizitis Familion Hosida.

*Zamenhofa Memorkunveno: Dec\21 En IV-Placo kunsidis 6 plus 1 el Murooran (S-ro Sudoo). Ni kantis Espero-n, Tagigon, aŭskultis raporton, diskutis, babilis, havis bankedeton aliloke.

*Jan.\25: Novjara Bankedo ĉe la hejmo de HOŠIDA. Kunsidis 8.

*Elementan Kurson ni planis komenci je 9/majo sed aperis neniu lernonto. Ni bone pensu kiel interesi onin.

*Festivalo de la civilaj grupoj en IV-Placo dum 20a-24a/aŭgusto. Ni ekspoziciis fotojn kaj raportojn pri Gotenbarga UK, de Paravin donacitajn fotojn pri indigenoj en Rusia Ĝorĝio, facilan enkondukon al Esperanto, k.a.

*28/jul. nian kunsidon en IV-Placo vizitis ĵurnalisto de Mainiĉi. El niaj paroloj kaj materialoj li publikigis artikolon en 19/aŭg. kun titolo "Unu alia internacia lingvo" por nia malkontento!

*例会: 月2回1830~2100.

1回は市文化交流センター (愛称アイビープラザ) 、もう1回は市内宮の森の星田宅にて。

入門コースはLa Unua Kurslibro,

中等コースは "Lasu nin paroli plu!" を使用。

このほかにも随時

インターネットからの資料を読む。

*10月17日、北海道大会に出席した S-ro V. Paravin が S-ro 宮沢同行で星田宅を訪問。

*ザメンホフ祭: 12月21日アイビープラザにて。6人+1人 (須藤さん/室蘭) 参加。活動報告、討議のあと、場を改めて懇親会。

*1月25日星田宅で新年会。3人参加。

*入門講習会5月9日からと計画したが、新人現れず。宣伝計画練り直すべし。

*アイビープラザ・サークルまつり: 8月20日~24日、エスペラント展を開く。

イェテボリUKの写真、来年の北京UKのポスター、Paravin の持ってきたロシア極東先住民族の写真、エスペラント解説ビラなど。

*7月28日毎日新聞記者、

アイビープラザの例会を訪問、

我々の説明や資料を見た結果の記事は

「もう一つの国際語 (!) に着目」として8月19日に出た。

大本エスペラント普及会北海支部

- 2002 : 9 : 15 ~ 大本北海本苑の秋の大祭にて大本エスペラント普及会北海支部
設立報告祭 ~ 参加者 ~ 250 名
- 2002 : 11 : 24 ~ 大本北海本苑新穀豊穰、豊漁感謝祭の祭典後
エスペラント学習行 ~ 受講者 ~ 190 名
- 2003 1 月から 全道大本北海本苑から各分所、支部、会合所にエスペラント
学習プリント配布す ~ 200 部
- 2003 : 4 : 20 大本北海本苑においてエスペラント学習する受講者 ~ 20 名
- 2003 : 5 : 17 ~ 18 大本北海本苑にて HEL と EPA 合同のエスペラント
合宿行 ~ 参加者 ~ 20 名
- 2003 : 6 : 15 大本北海本苑春の大祭後エスペラント学習する受講者 300 名
- 2003 : 8 : 1 ~ 3 大本北海本苑にて第 50 回青少年夏期学級において
エスペラント学習する 受講者 ~ 少年 56 名、青年 ~ 20 名
一般信徒 ~ 20 名
- 2003 : 8 : 24 大本北海本苑にてエスペラント学習する受講者 ~ 10 名

図書部決算

収入		支出	
売上	157 110	仕入支払	157 411
北海道大会	47 670	KLEG	7 697
ザメンホフ祭	5 080	JEI	125 214
合宿	4 800	川村氏	24 000
サッポロ堂	21 000	麻生古書	500
一般売上	63 990	送金手数料	290
道大会記念品	14 630	事務用品	787
寄付 (後藤氏)	900	HELより資金返却 (前年度分)	70 000
HEL資金借入	70 000	HELより資金返却 (今年度分)	70 000
		繰越金	-70 478
	228 010		228 010

*VOJO SENLIMA;N-ro 157, Aŭgusto 2003
熊本エスペラント会. B5 X12頁、日本語
第77回九州E (=エスペラント) 大会
(熊本)、国際交流会館でのパネル展示
の記事など。

*Al Vi Kara:N-ro 93(2003 aŭg.), 京都
エスペラント会、B5 X24頁のうちE文4
頁。編集者が忙しく1年ぶりの発行だが
内容は充実。4年後の世界大会(横浜)
をひかえ、1965年UKの Postkongreso
(関西)の思い出、UEAの元KKK(UKの常
任大会書記)の記事がいい。「お客の受
入れあれこれ(連載中:田平正子)」は
さすが経験者!のヒントがいっぱい。

*センター通信:2003年9月1日、N-ro
237、名古屋エスペラントセンター、B5
X16頁のうちE文1頁は名古屋弁の紹介。
来年の日本大会(犬山)準備状況、今年
のUK(Gotenburgo)参加記など。

*受講生通信 第90号, 2003-09-06, 沼
津エスペラント会, B5X10頁のうちE文
1頁。催し記事に「第67回北海道大会」

*Novajoj Tamtamas:N-ro 192, Aŭgusto-
Septembro 2003, Jokohama Esperanto-
Rondo(JER). A4X4頁、全文E. Spertoj
kaj Memoroj de Hama-Rondanoj は今年
の夏UKに参加した会員たちの多彩な報
告集。Legantoj skribas... には札幌、
苫小牧に来たことのある Nepala samide-

ano Mukunda Raj Pathik の文。

*La Tamtamo: 第349号(2003年9月,
JER), A4 X4頁、日本語。読書会報告は
"Sarkasme kaj entuziasme"(宮本正男)
について。「この内容は1回の読書会で
扱うのは無理、1年くらいかけて丁寧に
読みたい気がした」との意見あり。

*Mejlstono 2003 septembro N-ro 179,
仙台E会:B5X8頁の内Esp半頁。

*PONTETO:Septembro 2003 N-ro 201:
関東エスペラント連盟(ELK):B5X12頁の
うちE文4頁は関東大会弁論より、英文
2頁はNEWSWEEK INTERNATIONALに出た
Eについての記事。

*NOVA VOJO:2003.9: N-ro 388 septem-
bro, 定形封筒版 X44頁中E文約6頁,
EPA(大本エスペラント普及会). Goten-
burga UK報告は6頁にわたり、写真6枚。

*La Vulkano: N-ro 146, Aŭtuno 2003
: LA ORGANO DE HUKUOKA ESPERANTO-
SOCIETO:B5 X8頁、日本文。世界大会、
外国同志歓迎などの記事にカラー写真7
枚を入れた美しい機関誌。

*NOVA VOJO:2003.10: N-ro 389 okto-
bro, 定形封筒版 X36頁中E文約11頁。

*La Movado;KLEG(関西エスペラント連
盟)発行、N-ro 632 okt. 2003, B5 X16
頁のうちE文2頁半。

学び始めて、まずつかかるのが、

問①「**Kiu estas vi?**」 と 問②「**Kio estas vi?**」の違いではないでしょうか。

問①に対しては、例えば、答①「**Mi estas Akio.**」(氏名)と答え、

問②に対しては、例えば、答②「**Mi estas desegnisto.**」(職業)などと答えるのが一般的です。また、**Kiu**には、

③「**Kiu knabo el ili estas la plej alta knabo?**」

というように、「どの(少年)」という使い方があります。

では、**Kiu**は「誰」と「どの」という2通りの意味を持つ言葉なのではないでしょうか？

問①→答①→問②→答②と続いた場合を考えてみましょう。世界に(その)アキオさんは一人しかいません。デザイナーはたくさんいます。質問されたアキオさんは、世界のデザイナーさんたちのひとりです。

一方、③の文の場合には、**kiu**によって、**ili**という集合の中から、**la plej alta**である特定の一人を摘み取る文です。

実は、問①「**Kiu estas vi?**」は「**Kiu homo (el la homaro) estas vi?**」の省略形だと考えられます。**Kiu**に2通りの使い方が有るのではないのです。

Kiuは、ある集合の中から特定の一つを求める限定役であり、**Kio**は、単数複数問わず対象である物事を単数形で包み込むものを求める包括役である、と言えそうです。

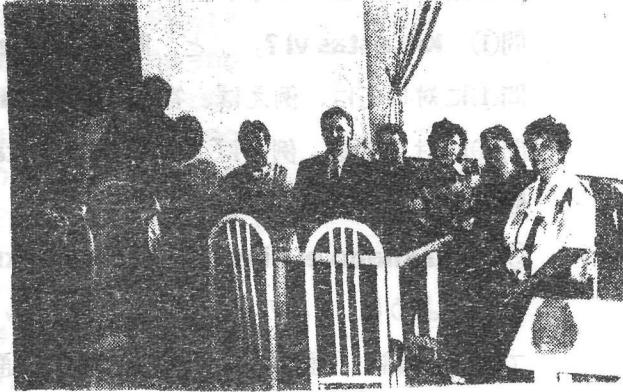
Kiuは(言わずもがなの場合は見かけ上、省かれることもある)名詞に係る形容詞的疑問詞ですが、**Kio**は「o」で終わっていることから明らかなように、文のなかでは、係られることはあっても、係ることはない、名詞そのものです。

さて、そうしたら、問②「**Kio estas vi?**」に答①「**Mi estas Akio.**」と答えるのは間違いではないでしょうか？ 集合の要素がたとえ一つであっても、集合であると考えれば、間違いではないと思います。そのように答えると、「帰属集団より個人が先に存在する。私はアキオだ。名刺に肩書きは要らない。」というカッコいい、教科書の模範解答よりもカッコいい答になるかもしれません。問②に職業で答えるという組み合わせは、E世界の慣習のなかでできあがってきたものではないでしょうか。**Teksto Unua**の中だけかもしれません。「**Kian profesion vi havas?**」のほうが誤解がない。

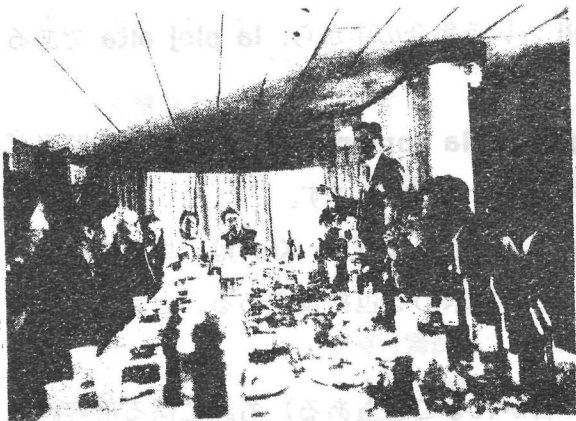
また、**kio, tio**は、単純な文以外は、「物事」の「物」(名詞)よりも「事」(文節)を請け負うことが多く、**kio**使用の全体から見て問答②のような使い方はむしろ少ないという事も頭に入れておいてください。(樺山 裕介)



Loka televida kompanio demandis al ni
地元のテレビ局から取材を受ける



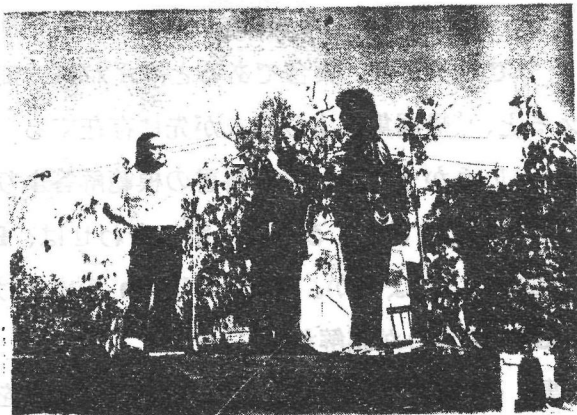
Kun anoj de "Pacifiko"
ウラジオEクラブの人たちと



Akcepta festeno de la kongreso
学生大会の歓迎会



Unu el la fakaj prezentoj
ある分科会の光景



Nia saluto ĉe la indiĝena festivalo
先住民祭であいさつクラスヌイ・ヤール村



Loka ĵurnalistoj demandis al ni ĉe ĝi
地元の記者から取材を受ける

ウラジオストックエスペ란トクラブとの議定書

La III-a INTERKONSENTO

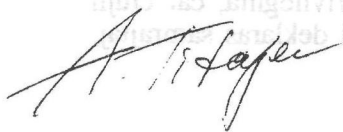
Por kunlabori inter Vladivostoka Esperanto-Klubo(VEK) kaj Hokkajda Esperanto-Ligo(HEL)

1. De post la lasta interkonsento inter HEL kaj VEK "PACIFIKO" la 29an de oktobro 2001 HEL kaj VEK agadis jene:
 - 1.1 HEL sendis al esperantistoj en Rusio sume 100 ekzemplerojn de 5 numeroj de organo de HEL. AFORE(Asocio de For-Orientaj Rusiaj Esperant) sendis al esperantistoj en Hokkajdo sume 400 ekzemplerojn de 2 numeroj de ĝia organo "La Pacifika Kuriero"
 - 1.2 En Oktobro 2002 unu esperantisto el Vladivostoko vizitis Hokkajdon kaj partoprenis la 66-an Hokkajdan Kongreson de Esperanto. Ses karavananoj de HEL partoprenis la 5an Internacian Studentan Kongreson de Azi- Pacifika Regiono.
 - 1.3 Esperantistoj en Vladivostoko kaj Ĥabarovsko skribis manuskriptojn al HEL kaj 10 artikoloj aperis en ĝia organo "Heroldo de HEL".
- 2 Ni, VEK kaj HEL, interkonsentis disvastigi nian rilaton dum du jaroj pli ol la supremenciita interamikiĝo inter esperantistoj en Hokkajdo kaj For-Orienta Rusio:
 - 2.1 VEK klopodos disvastigi AFORE-on kaj plu interamikiĝos kun esperantistoj en Japanio. En proksima tempo AFORE kaj HEL celos ĝemelan kunlaboron.
 - 2.2. Ni interŝanĝos plu organojn. VEK kaj HEL esperas, ke esperantistoj en Rusio kontribuos al "Heroldo de HEL".
 - 2.3. Donacante \$200 por du jaroj, HEL subtenos al VEK por fari projektojn: organizo de esperantistoj kaj interamikiĝo inter esperantistoj en Rusio kaj Japanio.
 - 2.4 VEK akceptos publike kaj aktive esperantistojn kaj klopodos realigi laŭeble projekton sendi anojn de VEK al eksterlandoj.

2003-10-01

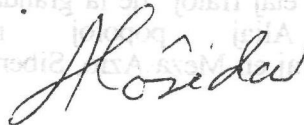
Reprezentanto de VEK

TITAJEV Aleksandro



Reprezentanto de HEL

HOŜIDA Acuŝi



Lingva diverseco en multpopola ŝtato ②

Surbaze de lingvaj spertoj dum Sovetunio

多民族国家での言語多様性 ～ ソ連での経験を踏まえて ②

Sergei Anikeev

国語は解決策たりえたか？

Cu ne estas pli simple difini iun lingvon kiel ŝtatan, kaj devigi al aliaj obei?

En kelkaj landoj oni ĝuste tiel faras: oni malatentas la ekziston de la enlanda lingva diverseco (ekzemple en Francio, kie provansaroj, germanoj, bretonoj, katalunoj, baskoj kaj italoj estas nacia malplimulto, sed la oficiala lingvo-politiko ignoras ilin tute). Ili simple fermas siajn okulojn je tiu problemo. Ignori estas ja pli simpla ol solvi.

En aliaj landoj, kie tiu ĉi problemo staras tre serioze, oni sentas neceson solvi ĝin iamaniere. Koncernaj ŝtatoj kompreneble solvas ĝin ĉiu laŭ sia maniero. Sed ĝenerale la problemo en neniuj lando estas solvita ĝis 100% kontentiĝo de ĉiu koncerna nacio (popolo, minoritata etno, gento aŭ tribo), enloĝanta tiun landon.

ロシア語が絶対だったツァーリ帝政期

Cu la lingva politiko, kiun provis efektiviĝi la Soveta Unio, ne estas pli bona, pli humaneca?

Al mi ŝajnas, ke ne.

Jam en la cara Rusio oni nomis la rusan sola ŝtata lingvo. Ĉar dum tiu tempo la rusa popolo superregis ne nur politike, sed ankaŭ lingve la aliajn popolojn en sia regno. Procentaĵo de la nerusoj egalas tiam 57%, do la rusoj estis fakte nacia malplimulto. En tiu periodo la rusa registaro celis senesceptan rusigon de ĉiuj popoloj de Rusio. Okazis banala perforta rusigo per subpremo kaj malestimo. Ec la parolantoj de la slavaj lingvoj: ukrainoj kaj belorusoj ne havis rajton klerigi per sia nacia lingvo, nek eduki siajn infanojn pri siaj popolaj kulturoj. Oni nomis la ukrainanojn kaj belorusojn "etaj fratoj" de la granda rusa popolo. Aliaj popoloj malpli multenombraj en Meza Azio, Siberio kaj

For-Oriento ne havis tute siajn skribajn sistemojn. Eĉ la lingvoj de popoloj, kiuj havis pli longan kulturon ol la rusoj, devis esti uzataj nur en siaj familioj au en la tradiciaj metiejoj. Nek *armena* lingvo, nek la *kartvela* (angle Georgian), kiuj havis plurcentjaran historion kaj tre antikvan kulturon, ne rajtis esti uzataj en lernejoj kaj administrejoj. Same estis ĉe la *poloj* kaj *finnoj*, kiuj ofte leviĝis kontraŭ rusoj. Tiel estis dum en Rusio regis deviga ŝtata lingvo.

上からの強制が無くても、現実には

Sed ankaŭ maldevigo surpapera ne signifas egalecon kaj reciprokan nacian estimon en reala vivo. Ĉar eĉ se oni ne nomas devigan tutŝtatan lingvon, kaj se oni proklamas prosperon kaj liberan elekton de kiuj ajn popola lingvo en sia ŝtato, tio ne nepre rezultigas mankon de unueciga lingva rimedo.

En kiuj ajn multnacia ŝtato la popolo, kiu konsideras sin solidiginta nacia (ŝtata) unuo, alprenas nepre komunan lingvon, kiu estas vole-nevole trudata al ĉiuj membroj de tiu ŝtato. Sen unueca lingva komunikilo, ŝtato simple ne povus plenumi siajn funkciojn kiel unuigita ŝtato. Eĉ se neniuj trudas iun lingvon "desupre" kiel ŝtatan, la vivo enkadre de tia politika kaj ekonomia unuo diktas sian volon. Por evoluigi, ekzemple, merkaton, oni vole-nevole alprenas iun lingvon, kiu plej bone servas bezonojn de vendistoj aŭ komercistoj. Estiĝas tia fenomeno: la bezonoj kaj postuloj de la komuna ekonomio difinas per si mem respektivan lingvon kiel la ŝtatan. Kaj por la plejmulto scii uzi tiun lingvon enkadre de sia lando signifas profiti ekonomie kaj prosperi socie. Ju pli demokratiaj estas prilingvaj deklaroj, des malpli vasta fariĝas elekto de komuna (interpopola) lingvo. "De-jure" (laujure) tiu lingvo ne estas privilegiita, ĉar ĉiujn popolajn lingvojn oni deklaras samrajtaj.

Sed "de-fakto" (reale) oni devas ĝin lerni (ju pli perfekte, des pli profitdone).

自治体のレベルによって、言語が違っていたなら

Ni iom supozu teorie. Se en iu ŝtato ekzistas federacia disdivido kaj laŭŝtupe ĝi prezentas per si jenan (desube supren):
- 1) aŭtonomia distrikto kun sia administrada (loka) lingvo - 2) aŭtonomia regiono (kun aparta lingvo de alia loka nacia plejmulto) - 4) aŭtonomia provinco (denove alia lingvo de alia plejmulto) - 5) nacia respubliko (kun sia nacia lingvo) - 6) ŝtataj administrejoj (kun neoficiala, ni diru, "labora" lingvo). Kiun vojon estus pli racie elekti por promociiĝi de la suba nivelo ĝis la supra?

Kompreneble, iu povas esti tute kontenta enkadre nur de sia loko (resp. distrikto, regiono, provinco, respubliko), ĉar tiu povas limigi sin per sia gepatra (loka) lingvo sen pene lerni ĝin. Aŭ ĉu pli indas ekmajstri du-tri malsamajn lingvojn (kies lernado jam estas sufiĉe komplika kaj temporaba) por eniri eliton de alia nivelo? Sed se ekzistas reala ebleco alpreni nur "maldevigan", sed landskale "libervole" adoptitan (ĉar neniu tion oficialigis) funkcieblan lingvon, probable ĉiu senhezite farus sole racian elekton, ĉu ne? Ju pli liberale oni sintenas pri manko de oficiala ŝtata lingvo, des pli rigore estas trudata tiel nomata "lingvo de interpopola frateco kaj egaleco".

国内の「民際語」

Mi persone ne scias iun evoluantan landon, kie estas vaste uzata lingvo ne de la oficialaj instancoj, aŭ kie oni uzas lingvon de nacia malplimulto paralele. Ĉie absolute superregas lingvo aŭ oficiale stampita kiel ŝtata, aŭ per la kutima uzo fakte funkcianta lingvo en la enstata vivo: la politiko, ekonomio kaj armeo. La tereno de kulturo estas ankaŭ subkomprenata. Tial, laŭ mi, pli honeste estus ne hipokriti kaj fari trikojn, perbuŝe manipolante la vortojn "interpopola" aŭ "fratiga lingvo" sen agnoski ĝin oficiale, sed klare difini la lingvon kaj la rolojn de

tia lingvo ene de respektiva lando/ŝtato.

Estas naiva afero kredi, ke ĉiu popola lingvo plene respondas la postulojn de interpopola komunikado je ŝtata nivelo. Ĉiu lingvo havas sian gradon de evoluiteco, kiu perfekte povas kontentigi ties parolantojn. Sed por evolui, ĉiu etna lingvo bezonas certan tempon. Ni vidu ekzemplon de Ukrainio.

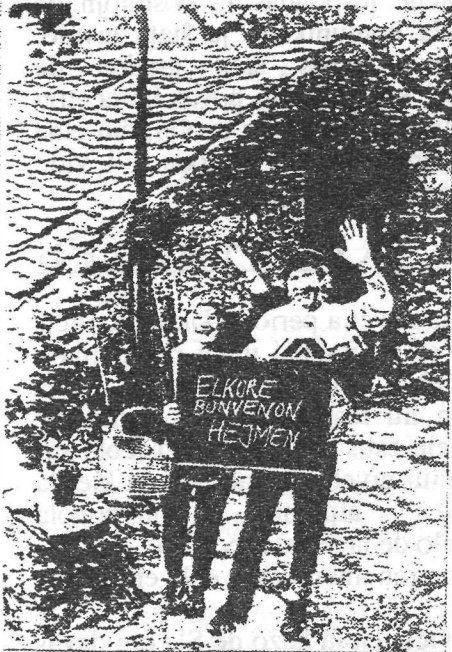
ウクライナ人がロシア語を話すわけ

Dum la sovetia periodo Ukrainio vicis kiel unu el la grandaj uniaj respublikoj. Kompreneble, la ukraina estis nacia lingvo en tiu respubliko, kaj samtempe kaj paralele estis uzata kaj ekzistebla sur preskaŭ ĉiuj niveloj ankaŭ la rusa kiel la "libervole alprenita interpopola komunikilo de la sovetia popolo".

Kial tia fenomeno estis ebla en Soveta Unio?

Unuavice, en la kazo de SU oni devas rigardi la sociajn kaj la historiajn flankojn de la problemo. Ne estas malfacila afero kompreni, se en iu multpopola lando "A" lingvo estas nacia specifaĵo de respektiva malmultenombra popolo kaj la aliaj enloĝantaj popoloj parolas ĉiu tute malsamajn lingvojn, disvastigi tiun "A" lingvon kiel komunan interpopolan lingvon tra la tuta lando estas treege komplika afero. Sed pri la rusa estis io aparta. Unue, la rusan lingvon en SU parolis denaske pli ol duono de la tuta loĝantaro. Due, por ukrainoj kaj belorusoj (ambaŭ parolas parencajn lingvojn de la slavlingva deveno) estis facile majstri ĝin. Tiamaniere, ĉirkaŭ 70% de la loĝantaro en SU flue parolis la rusan (statistiko de 1980). Ĉe tio ni ne devas forgesi jenon: ukrainoj kaj belorusoj dense loĝis ne nur en Rusio, Ukrainio kaj Belorusio, sed ankaŭ en la aliaj 12 respublikoj de SU. Ekzemple ukraindevena Gogolj, tre bone konata verkisto de la 19-a jarcento, verkis sole en la rusa lingvo kaj liaj verkoj vicas kiel trezoroj de la rusa klasika literaturo. Lia rusa lingvo estis brila kun specifa ukrainlingva koloro.

(daŭrigota)



誰でも歓迎 本場のヨーロッパ以外でも人気上昇中

Language

Speaking Up for Esperanto

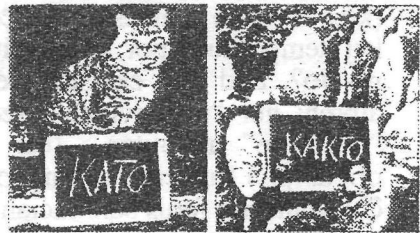
エスペラントの夢よ、再び

言語 英語支配への反発とグローバル化の波に乗って
19世紀に生まれた人工言語が静かなブームに

エスペラント語の熱心な支持者は、もう嘲笑には慣れた。ユダヤ系ポーランド人のルドビーク・ザメンホフが、ロマンス諸語の単語にスラブ、ギリシャ、ゲルマン諸語を組み合わせて人工の国際言語を考案したのは1887年。以来、エスペラントは言語おたくの非現実的な理想と皮肉られてきた。

しかも異文化間の自由な交流をめぐすエスペラントの理念は、権力者に警戒心をいだかせた。たとえばサダム・フセインは、イラクでただ一人のエスペラント語講師を国外追放にした。

ところが、ここへきてエスペラントの人氣が再燃しているらしい。本当の最盛期はこれからだと、支持者は希望をいだいている(エスペラントは「希望をいだく人」の意)。話し手の数について正確な統計はほとんどない。世界で800万



週間単語 トルストイは4時間で習得したといわれる

人という推計もあるが、にわかには信じがたい。それでもアフリカやアジア、南米に広がっているのは確からしい。「ネットのおかげで、中国やブラジルなどでもエスペラントを話す人が増えている」と、世界エスペラント協会のハンフリー・トンキン元会長は言う。

英語より5倍やさしい
少数ながら、エスペラントをEU(欧州連合)の公用語にしようというロビー活動を展開する人々もいる。確かに自由貿易やインターネットで国境の壁が低くなった現代にはびびったりかもしれない。先日スウェーデンで開かれた第88回世界エスペラント大会には、日本やイスラエル、ネパール、ブラジルからの参加者も含む1800人が集まった。主催者によると、参加者は昨年より2割近く増えた

という。エスペラント語のホームページの数も、98年の330から今年788に急増した。英語と違い、エスペラント語を学ぶときは誰でもスタートラインが同じだ。英語が母語の人は世界人口の1割にすぎないが、非英語圏の人々に同等の語学力を求める。「たとえばアジアでは、英語を学ぶことに疑問を感じ、別の手段はないかと考える人が少なくない」と、ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジのジョン・ウエルズ教授(音声学)は指摘する。

エスペラント語の話し手が最も多いのは、今も本場のヨーロッパだ。創始者のザメンホフが活躍した当時は、英語より5倍簡単という点が高人々を引きつけた。トルストイは4時間で習得したという。しかし、人氣と同時に警戒感も強まった。ヒトラーはユダヤ人の「世界支配を助長する」と主張。スターリンはエスペラント語の話し手をシベリアに送り、エスペラント人口は徐々に減っていった。ヨーロッパでは話し手が高齢化しているものの、ポーランドやハンガリーでは今もエスペラント語の博士号が取れる。一方、途上国での人氣には、貿易や国際政治の舞台で幅を利かせる英語への反発という面もあるようだ。

「ブッシュとブレアはエスペラントの最良の友だ」と、ハイデルバース大学(インド)のプロバ・ダスグプタ教授(言語学)は言う。「グローバル化は追い風だ。おかげで言語だけでなく、エスペラントの社会的な理想にも関心をもちてもらえる」
同じ期待はザメンホフの時代にもあった。だが、国と国の距離がかつてなく縮まった今こそ、絶好のチャンスだ。
シナン・フョウネル(ロンドン)

Language

Speaking Up for Esperanto

A lingo developed by a 19th-century idealist is back in fashion

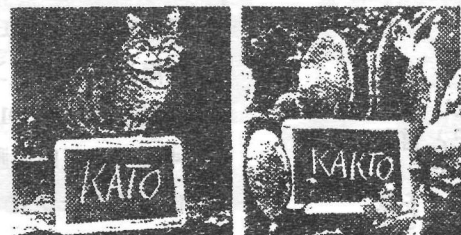
BY GINANNE BROWNELL

OVER THE YEARS, Esperanto enthusiasts have grown thick skins. Ever since a Polish Jew invented the language in 1887 in the hopes of fostering a cross-cultural community, cynics have mocked it as an idealistic cult for linguistic weirdos. Yet for such an ambitious and unlikely idea—three quarters of the words are from Romance languages and the rest from Slavic, Greek and Germanic tongues—it has earned its share of notoriety. Saddam Hussein felt so threatened by it, he expelled Iraq's only Esperanto teacher during his tyrannical regime. And billionaire benefactor George Soros owes his prosperity to the idea: he defected from Communist Hungary at the 1946 World Esperanto Congress in Switzerland.

To hear a growing number of enthusiasts tell it, the language's most glorious day may actually lie ahead. Though numbers are hard to come by—and those available are hard to believe (the Universal Esperanto Society estimates 8 million speakers)—the language may be spreading in developing nations in Africa, Asia and South America. "Because of the Internet, we have seen a vast improvement in the levels of competent speakers in places like China and Brazil," says Humphrey Tonkin, a professor of English at the University of Hartford and the former president of the Universal Esperanto Association (UEA).

Meanwhile, a small community of diehards has been lobbying to make it the official language of the European Union. Indeed, Esperanto seems perfect for a modern age, when global barriers are being torn down by free trade, immigration and the Internet—and where activists, hobbyists and intellectuals across the globe are communicating as never before.

The renewed enthusiasm for the lan-



WELCOME SIGNS: Esperanto is amazingly easy to learn

guage was on display last week in Goteborg, Sweden, the site of the 88th annual World Esperanto Congress. Some 1,800 members of the UEA—from places as varied as Japan, Israel, Nepal and Brazil—conversed in what sounds like a mixture of overenunciated Italian and softly spoken Polish. Organizers say attendance outstripped last year's meeting by almost 20 percent. Meanwhile, the number of Esperanto home pages has

jumped from 330 in 1998 to 788 in 2003.

So what's the big appeal? Unlike that other global language, Esperanto puts everyone on a level playing field; native English speakers make up only 10 percent of the world population, but they expect everybody else to be as articulate as they are. "Throughout Asia, for example, people are conscious of the language problem because they all speak different languages," says John Wells, professor of phonetics at University College London. "Some are questioning whether they have to use English as their language for wider communication or whether there is some other possible solution."

The majority of Esperanto speakers still live in Europe, where the language was invented by Ludovic Zamenhof, under the pseudonym Doktoro Esperanto (meaning "one who hopes"). Back in his time, people were drawn to Esperanto because it is five times easier to learn than English and 10 times simpler than Russian; Leo Tolstoy reportedly learned it in four hours. But as the language's popularity grew, so did fears—especially among tyrannical rulers. Hitler claimed it could be used by Jews "to dominate more easily." Stalin, threatened by the idea of global communication,

sent thousands of Esperanto speakers to Siberian gulags. Gradually, the numbers began to drop off.

Nowadays, European Esperanto speakers tend to be older throwbacks to the cold-war era—though students in Poland and Hungary can still earn Ph.D.s in the language. Many believe the popularity of the dialect in the developing world is being fueled by growing resentment of English as the language of global commerce and political rhetoric. "Bush and Blair have become Esperanto's best friends," jokes Probal Dasgupta, professor of linguistics at India's University of Hyderabad. "Globalization has put a wind in our sails, making it possible for people to have interest in Esperanto as not only a language, but a social idea." Similar hopes have been voiced from the moment Zamenhof first came up with his egalitarian lingo. But in today's rapidly shrinking world, the timing couldn't be better.

With DALIA MARTINEZ in London

第1回委員会 (9月14日 苫小牧市アイビープラザ)

参加者：星田淳、樺山裕介、佐藤英治、宮沢直人、横山裕之、後藤義治
担当を前年度と同じくすることを決定。

第2回委員会 (10/25(土) 札幌市北区ロンデタージョにて)

出席者：星田淳、横山裕之、佐藤英治、佐藤不二雄、樺山裕介、後藤義治、宮沢直人
《組織》新入会2名、再入会1名。《広報》ホームページ(HP)の掲示板が荒らされたので、悪質な書き込みをする者を排除できる有料掲示板「レベル1」に切り替える。その編集権を広報部横山に認める。その年額2940円の支出を承認。HPアクセス数29459。チャット紹介についての問い合わせがあった。《情報・宣伝》極東ロシア訪問団がウラジオ訪問中に地元テレビ局の取材を受けた。Eを学習している山内慶氏(非会員)より、札幌国際プラザの通訳ボランティアに、エスペラント通訳で登録すると事務局に連絡・相談があった。《学習・教育》職務が多忙で実活動が困難なアニーケーエフを研究教育部長の任から解き、佐藤不二雄を新たに研究教育部長とする。EPOAが大本北海本苑(富良野市)にて9/12-13に学習会をおこなった。SES学習会が11/22、ザメンホフ祭が12/6、いずれもかでの2-7にて。《メールマガジン》10/27発行号の購読数929で数字は横這い。次号は11/21発行。《図書》売れ残っている販売用図書のうちから選んで、ウラジオEクラブ「パツィフィーコ」に寄贈した。《機関誌》97号(9/7発行)が少数民族関係の記事を含んでいるので、知己のアイヌ民族関係約10箇所にする。97号は170部印刷し3年間会費未納の人までを含めて送った。奇数月10日を定期発行日とする。《年間計画》新年会(新年講習会ではない)は1/10(土)13:00に「ふるさとのお正月」というテーマで。会費2000円。5月合宿は5/17(土)18(日)、小樽にて。北海道大会(札幌)は10/15-16をめどに。《社会活動》極東ロシア訪問団報告(14頁参照)。署名された議定書を委員会で批准(15頁)。大本本部から招待されて日本大会に参加した星田・佐藤英治から報告。《次回委員会》12/13(土)17:00ロンデタージョ

<ENHAVO>

- 1 La 67a Hokkajda Kongreso de Esperanto
- 12 Danke ricevitaĵ
- 13 Fenestreto de lernado
- 14 Fotoj de la karavano al Fororienta Rusio
- 15 La 3a Interkonsento kun la Vladivostoka E-Klubo "Pacifiko".
- 16 Lingva diverseco en multpopola ŝtato (S.Anikeev)
- 18 Newsweek raportis pri E
- 20 La Komitato

<目次>

- 1 第67回北海道エスペラント大会・苫小牧.
 - 3 ダイアン・ルークスさんからのメール
 - 4 篠原昌彦さんの講演「21世紀と言語、母語、エスペラント」(樺山裕介)
 - 6 諸報告：総会(佐藤英治)、決算、予算、苫小牧エスペラント会、大本エスペラント普及会北海支部、図書部決算
- 12 受領郵便物(星田淳)
- 13 学習の小窓 Kiu と Kio について(樺山)
- 14 第3回極東ロシア訪問団
- 15 ウラジオストックエスペラントクラブとの議定書
- 16 多言語国家での言語多様性～ソ連での経験を踏まえて②(セルゲイ・アニーケーエフ)
- 18 ニューズウィーク誌で紹介されたエスペラント
- 20 委員会報告など

HELの新年会をします。

1月10日(土)13:00

札幌市北区ロンデタージョで
テーマ「ふるさとのお正月」

Heroldo de HEL

第98号 (2003. 12. 5)

北海道エスペラント連盟機関誌

編集部 〒001-0045

札幌市北区麻生町1-3-13

ロンデタージョ

樺山 裕介

tel/faks 011-717-4189

郵便振替口座

02700-6-17075

北海道エスペラント連盟

正会員 3000円 家族会員 1000円

青年会員(25歳以下) 1500円

購読会員 2000円